

# AMDA ジャーナル ダイジェスト

発行：2015年12月 No.45 定価 150円  
 発行元：〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1  
 認定特定非営利活動法人 アムダ：AMDA  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail:member@amda.or.jp  
 編集：AMDA ボランティアセンター  
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

## AMDA ネパール地震復興支援 ーネパール地震から半年ー

今年4月25日にネパール中部を直撃したマグニチュード7.8の大地震は、各地に大きな被害をもたらし、震災後半年以上が過ぎても被災地ではまだまだ復興の目途が立っていません。村全体が全壊してしまった地域では、寒い冬を前に、テント暮らしを余儀なくされています。さらに9月20日に新憲法が公布されて以降、インドからの物資がストップし、国民はさらに生活への不安を抱えながら暮らしています。現在AMDAでは、復興支援活動を実施しています。緊急救援活動中に直面した問題から特に必要と思われる支援について、AMDA ネパール支部が中心となり、現地のパートナー団体とともに継続して様々な取り組みを行っています。

### ネパール医師会・日本医師会・AMDA 合同心理カウンセリングボランティア 養成プログラム

大災害を経験した被災者の中には、精神的なダメージを強く受け、PTSD（心的外傷後ストレス障害）を発症、いまだに不安や恐怖、頭痛などを訴える方も多くいます。AMDAはネパール医師会、日本医師会と協力し、心理カウンセリングを行える人材を育てるためのプログラムを実施しています。



カウンセリングボランティア養成プログラムの受講者

この養成講座は現在まで4回実施され、被災地のヘルスアシスタントや地方開発担当のスタッフなど140名程度が修了しました。ネパール政府から日本医師会・AMDAへ感謝の言葉が寄せられました。

### トリブバン大学教育病院合同 アウトリーチ訪問診療プログラム



チョータラの郡病院での診療

今回の地震では、特に山間部の集落に支援が行き届かない現状もありました。AMDAとトリブバン大学教育病院とは合同でアウトリーチクリニック（健康支援事業）プロジェクトとして、支援が届きにくい被災地を中心に同大学教育病院の医療チームを派遣し、無料巡回診療を実施しています。

1チーム1週間交代で、シンドウパル、チョク郡、チョータラの郡病院を支援したり、医療にアクセスの難しい村々を訪れ、診療や衛生教育などを行っています。

### 障がい者支援プログラム

地震の影響で負傷し、障がいを抱えることとなった人々も多くいます。しかし、医療機関やリハビリセンターのような退院後の受け皿が不十分で、今後の生活もままならない状況にあります。そのような震災で障がい者になられた方達があっても自立していけるよう、AMDAは、ネパール政府などが主催となりカトマンズ大学などで開催した車いす製造技術研修会にAMDA理学療法士を派遣し、第1弾として、車いす5台分の製作を支援しました。



脊髄損傷リハビリテーションセンターで

## アフガニスタン北東部・パキスタン地震被災者に対する緊急支援活動

10月26日にアフガニスタン北東部ヒンドウクシュ山脈を震源とするマグニチュード7.5の地震がアフガニスタン・パキスタン両国を襲い、甚大な被害が出ました。国連人道問題調整事務所(UNOCHA)によると、アフガニスタンでは死者117名、負傷者544名、建物の全半壊は20,178軒（11月23日時点）、パキスタンでは死者280名、負傷者1,982名、建物の全半壊は、103,268軒にのぼる（11月9日時点）といわれています。AMDAは発災翌日から、アフガニスタンではAMDAアフガニスタンと、パキスタンでは現地NPOのNational Rural Support Programme (NRSP)と連絡を取



アフガニスタン・パンジシール州の被害の様子

り合い独自調査を開始しました。

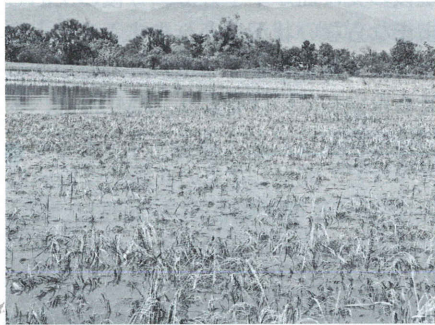
調査結果に基づき、被害の大きかったパキスタン側マルダン県ファティマ地区で家が全壊した被災世帯4軒の家を再建するために建設資材の提供を行うことを決定。現地では既に資材を購入し、建設が始まっています。



## フィリピン台風 24 号被災者に対する緊急支援活動

10月18日にフィリピン・ルソン島東部のオーロラ (Aurora) 州に上陸した台風 24 号は、上陸から3日間ルソン島上空に停滞。その影響を受け同島中部から北部にかけて広い範囲で水害が発生しました。台風被害が深刻なパンガシナン州出身の AMDA 協力者からの支援要請を受け、AMDA は 21 日に緊急支援を行うことを決定し、23 日には AMDA 本部から看護師 1 名が被災地に向けて出発しました。

同日マニラに到着した AMDA 看護師は、現地協力者と合流し、被災地の 1 つであるパンガシナン (Pangasinan) 州に移動しました。パンガシナン州は、マニラから北に約 200km。台風 24 号により農村地帯が広く浸水したため、収穫直前だった農作物は甚大な被害を受けました。



収穫前の水没した田んぼ

翌 24 日には、地元警察所属の医師 3 名、地元看護師 2 名、マッサージ師や自治体職員などの協力の下、パンガシナン州リンガイエン (Lingayen) 町ワワ (WAWA) 地区とアプラヤ (Aplaya) 地区の 2 箇所で医療支援活動と食糧支援活動を行いました。



医療支援活動中の AMDA 岩本看護師

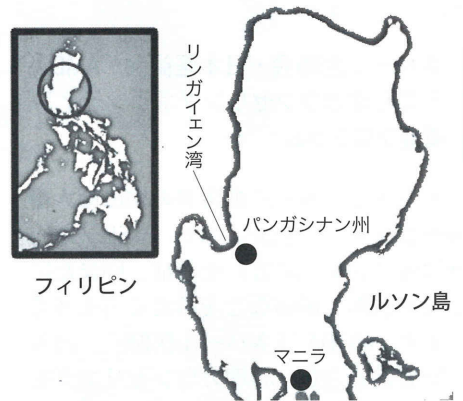
ワワ地区では約 3 時間で 220 名 (うち 34 名が 5 歳以下) を診察することができました。アプラヤ地区でも約 3 時間で 240 名 (うち 38 名が 5 歳以下) を診察することができました。両地区ともに、年齢に関わらず上気道感染症と診断される人が多く、慢性疾患である高血圧症の人も多く見られました。

さらには両地区で食糧支援も行い、チキン粥の炊き出しに加え、計 1000 世帯に対し米 2 キロと魚やソーセージの缶詰 1 個を配布しました。今後は、被



チキン粥にうれしそうな表情を見せる親子

災地の状況をみながら、フォローアップ活動を計画していきます。

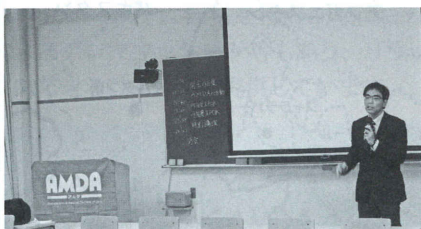


フィリピン国家災害対策本部によると、この台風 24 号による死者は 48 名、負傷者 83 名、行方不明者 4 名。約 73 万世帯、300 万人以上が被災しました (11 月 3 日時点)。

## おかやま国際塾 5 期生報告会 開催報告

11 月 18 日、おかやま国際塾 5 期生の報告会が岡山大学文法経講義棟で行われました。報告会のサブタイトルは「グローバル社会で活躍するために」。会の立案から運営まで、全て学生が中心となって行いました。

5 期生たちは、今年 6 月から始まった国内での事前研修を経て、8 月 18 日～25 日研修先のベトナムへ渡航。現地でもブンタウ省とホーチミン市の大学生とともに、学生らが主体性を持って研修内容を決め、精力的に活動しました。

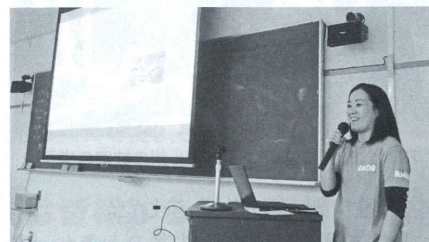


開会挨拶をする黒神教授

同塾実行委員会の副委員長であり岡山大学法学部、黒神直純教授の開会あいさつで、会がスタートしました。

AMDA 担当者から、同塾が始まった経緯やコンセプトについて説明があった後、修了証が黒神教授から 5 期生一人ひとりに手渡されると、会場は拍手に包まれました。

報告会に先立ち、昨年フィリピンで研修を行った同塾 4 期生を代表して、松原嘉子さんが「グローバル社会で活躍するには」をテーマに披露。昨年の同塾参加後の目覚ましい進展の様子が報告されました。



第 4 期国際塾に参加した松原さん

続く報告会では同塾 5 期生が、参加した経緯、事前研修の様子、現地での活動内容を説明した後、今回の経験をもとにグローバル社会で活躍するため



(写真左から) 5 期生の橋本さん、本間さん、玄馬さんに、必要だと考える意義を 4 点 (計画、マナー、ハプニング、異文化理解) にまとめて、各自の意見を交えながら発表しました。質疑応答では会に参加した学生から「ハプニングが起こった時にはどう対応したか」「ベトナム戦争について現地研修で新たに学んだことは何か」など、双方の熱心な様子が印象的でした。

最後に特別講演として、黒神教授とご縁がある大阪大学グローバルコラボレーションセンター、安藤由香里特任助教のお話で会を締めくくりました。

今年も同塾の経験を通して、参加した学生の目覚ましい成長を感じさせる報告会となりました。

## AMDA 南海トラフ地震対応プラットフォーム

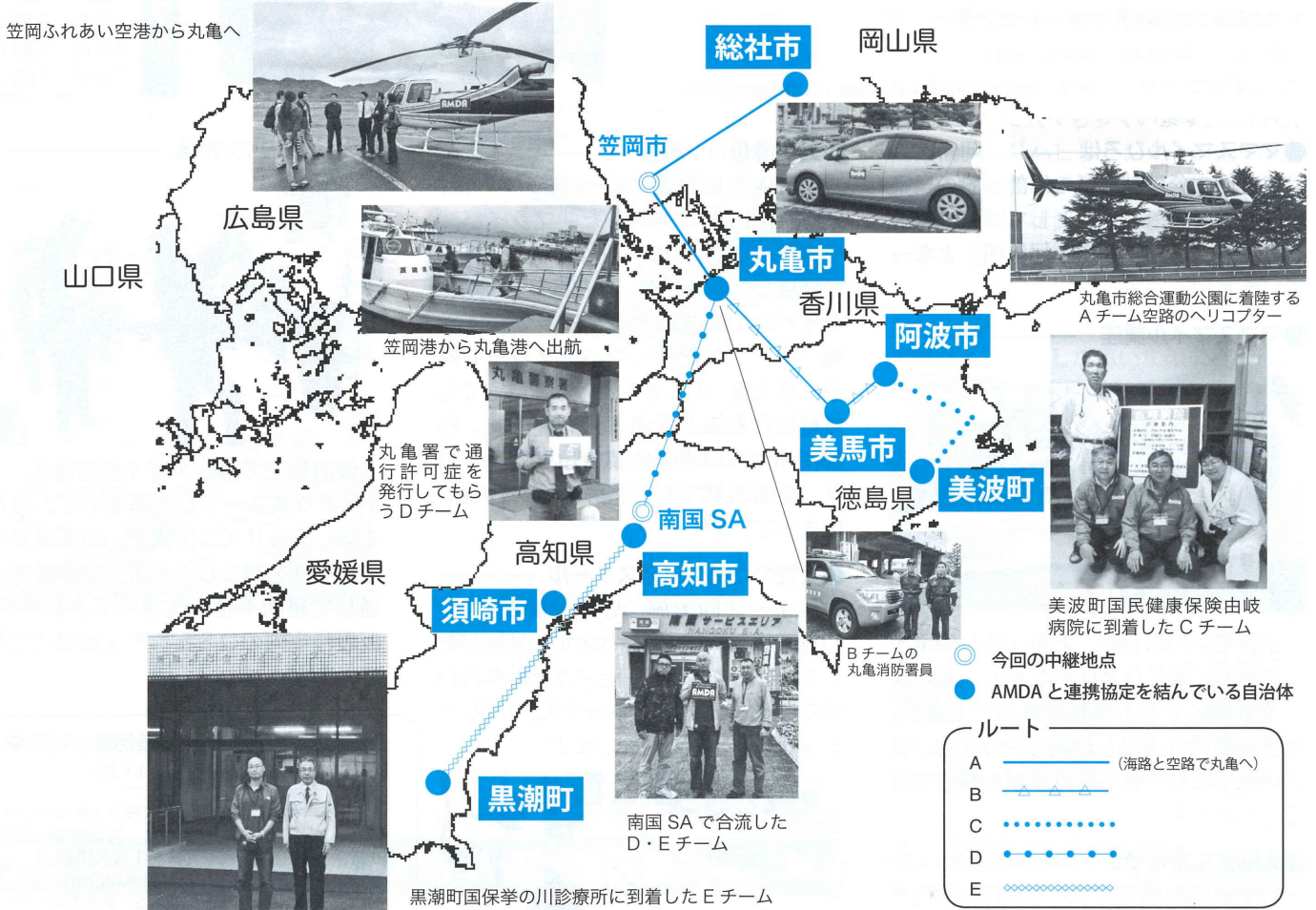
AMDAは11月9日、「AMDA 南海トラフ地震対応プラットフォーム 輸送と通信のシミュレーション」を実施しました。今回は、連携協定を結んでいる2県（徳島県、高知県）と8市町（岡山県総社市、香川県丸亀市、徳島県美馬市、阿波市、美波町、高知県高知市、須崎市、黒潮町）27名（輸送20名、通信7名）とともに、近い将来その発災が予想されている「南海トラフ地震」において、AMDAが被災自治体と連携して円滑な医療救援活動を行うことを目的に、発災を想定した輸送と通信網を検証しました。

冬の早朝に四国沖の南海トラフを震源とするマグニチュード8.6の大地震が発生した後、徳島県、高知県に「大津波警報」が発令されると想定してシミュレーションがスタート。午前8時にAMDAは総社市危機管理室のスタッフとともに総社市消防本部に災害対策本部を設置したのにつき、瀬戸大橋が通行

不能になったと仮定し、海路と空路を使って四国に渡るAチームの出発式が8時30分に総社市役所で行われ、笠岡から丸亀市に向かいました。中継拠点となる丸亀市からは異なるルートで被災地に向かうB・C・D・Eの4チームが、ルートと所要時間の確認を行いました（詳細は下図）。

また同時に行われた通信のシミュレーションでは、被災各地に設置した災害対策本部や、高知県と徳島県とは衛星携帯電話や衛星通信ネットワークなどを使用し、電波状況や受信時刻情報などの確認も行いました。

今回のシミュレーションの実施で浮かび上がった課題や問題点は、2016年2月に開催を予定している「第3回南海トラフ地震対応プラットフォーム調整会議」で、各自治体や協力団体などと情報を共有し、今後の活動にいかしていくことにしています。



## AMDA フードプログラム

9月26日、岡山県新庄村野土路地区にある「AMDA 野土路農場」では、毎年恒例の稲刈り体験と収穫祭に約20人が参加して行われました。AMDA 野土路農場は、アジアへの有機農業の普及・啓発を目的に2012年から始まった取り組み。アヒルを使った無農薬でコシヒカリなどの米と野菜の栽培を行っています。

農場長の稲田泰男さんのあいさつの後、稲刈りの説明を受けた参加者は、鎌を手にも早速稲刈りに挑戦。前

## 野土路農場（新庄村）収穫祭開催報告

日の雨で水を含んだ田の土は予想以上に軟らかく足をとられつつも、たわわに実った稲穂を刈り取っていきました。収穫後、有機農業サポートセンターを会場に行われた収穫祭では、新庄村の堀義和副村長のあいさつの後、参加者の皆さんは、村で採れた野菜などを使ったバーベキュー料理、野土路米、アヒル汁などの昼食に舌つづみを打っていました。

また会場では、村で生産された野菜が当たるじゃんけん大会や、倉敷市のうらじゃグループによるうらじゃ踊りの披露、



野土路農場のリーダー・シタミさんの歌とギター演奏なども行われ、秋のひとときを楽しみました。

## 東日本復興支援事業 AMDA 大槌健康サポートセンターの活動報告

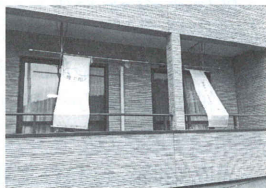
AMDA 大槌健康サポートセンターは、東日本大震災発災年の12月、岩手県大槌町に開設されました。

「町民のこことからだの健康をサポートするふれあいスペース」として鍼灸治療と震災後のコミュニティ形成の2つを柱に、子育て支援、食生活改善、運動促進の3つの分野を中心に事業を展開しています。スタッフ全員が地元大槌出身・在住の女性。今年開設から4周年を迎えます。地元の伝統芸能や食文化を、次の世代に伝えようという方々も協力してくださっています。さらに子育て世代のスタッフが企画・運営する講座やサロンには、今日も地元で子育てに奮闘するママさんたちが集まり、確実に世代を越えた地域コミュニティの輪が広がっています。

＊AMDA 大槌健康サポートセンター

[メール] kensapo@amda.or.jp

[フェイスブック] <http://www.facebook.com//Amdaotsuchi/>



### ● 鍼灸治療支援活動

避難時からニーズの高かった鍼灸治療を、復興支援事業の一つとして位置づけ、震災直後から地元の鍼灸師とともに、鍼灸治療活動を実施してきました。

大槌町内の仮設住宅で暮らす独居の方や、内陸地域へ転居された寝たきりの元町民の方など、通院が難しい高齢の方を訪問診療しています。



治療風景

#### 月別鍼灸治療のべ患者数

2015年6～11月

大槌町	6月	113人
	7月	124人
	8月	87人
	9月	109人
	10月	130人
	11月	136人

### ● ママスマイルひろば

月1回、公民館などの外部施設の一角を「キッズスペース」として開放。母親と子どもがふれあえる「居場所」となっています。

### ● ママスマイル講座



子育て中の母親が、お菓子作りやネイルアート、手芸など様々なジャンルの講座を気軽に子ども連れで参加できます。大きな特徴は講師も母親ということ。受講中も子どもの様子を見ながら参加できると人気です。

### ● 大槌まんまるサロン (共催:まんまるママいわて)

岩手県内の助産師さんを中心とするグループと一緒に運営するサロンで、乳幼児を持つ母親や妊婦さん同士の交流の場となっています。助産師さんに育児の悩みを気軽に相談できる他、ママさんの手作りスイーツや、資格を持つ助産師さんによるアロママッサージ等もあり、リラックスできるひとときを提供しています。

### ● 天然酵母パン教室

AMDA 大槌健康サポートセンターが、2012年10月に開講した「フライパンでできる天然酵母パン作り養成講座」が発展したものです。現在は基本編(フライパンでできるパン教室)と、応用編(オーブンを使ったパンプレート教室)を実施、おしゃれだけど、自宅でも気軽に作れると受講者に好評です。外部団体からの講師要請依頼も受けており、近隣地域でも天然酵母パン教室が広がっています。

### ● 女性のためのヨガスクール

月1～2回実施。専門講師を招き、心身のリラックスを図ります。講師がセレクトしたスムーズーとヨガを組み合わせることで、更なるデトックス、リフレッシュ効果を高めるといいます。



### ● チャレンジショップ

得意分野を活かし、商品販売を目指す方への自立支援として、センター内での販売スペースや委託販売、出張販売の機会を提供しています。

### ● 大槌ドンパン体操



仮設住宅で暮らす方々を対象に、今年5月よりスタートした講座です。無理なく楽しめるリズム体操と、お茶菓子でおしゃべりを楽しむ「お茶っ子の時間」を通して運動不足の改善やストレス解消、仮設住宅内のコミュニティ構築につなげています。

#### ◆ 東日本大震災復興支援活動の軌跡 ◆

(2015年6月～11月)

- ◇ 7/17～7/20 F-1 グルメボランティアバスツアー (岡山発着 宮城県気仙沼市)
- ◇ 7/19 第10回復興グルメリ大会開催 (宮城県気仙沼市)
- ◇ 8/21～8/25 岡山経済同友会 学生ボランティア受け入れ (岩手県大槌町)
- ◇ 9/12～9/16 岡山県立大学学生ボランティア受け入れ (宮城県南三陸町・気仙沼市・岩手県大槌町)
- ◇ 11/2 おかやまコープ 研修受け入れ (大槌町・大槌健康サポートセンター)
- ◇ 11/13～11/16 F-1 グルメボランティアバスツアー (岡山発着 宮城県南三陸町)
- ◇ 11/15 第11回復興グルメリ大会開催 (宮城県南三陸町)
- ◇ 11/18 ～風評被害からの復興～ 南相馬産米「天のつぶ」購入支援

## AMDA の活動は皆様からのご寄付で実施されています

認定NPO法人AMDAへのご寄付は税控除の対象になります。

ご寄付の際にプロジェクト別のご寄付指定も可能です。



書き損じハガキ、未使用切手を集めております。通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。



これまでのAMDAカードのほか、VISA・JCBなどのクレジットカードでのご寄附も取扱いできるようになりました。また新たにPAYPAL決済も導入しております。詳しくはWEBをご覧ください。

本年も温かいご支援ありがとうございました。